

第10回（2020年度） 運営報告会 資料

2020年10月9日（金）公開

議題：

- | | |
|-----------------------------|---------|
| 1. はじめに | 会長 浅田 稔 |
| 2. 事業別報告（2020年度概要，2021年度計画） | 各担当理事 |



一般社団法人 日本ロボット学会
The Robotics Society of Japan

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-19-7
ブルービルディング 2階
TEL. 03-3812-7594 FAX. 03-3812-4628
URL <http://www.rsj.or.jp/>

はじめに

会長 浅田 稔

COVID-19の影響で、内外の多くの学会がオンライン開催となっており、本学会も感染抑制の観点から、第38回の学術講演会RSJ2020をオンライン開催する。通常の対面型の学術講演会と異なり、善し悪しが多々あるが、欠点をなるべく補い、長所を活かす学会にすべく、学会事務局を中心に実行委員会の方々のご尽力により開催の運びとなった。ここに感謝申し上げる。

学会としては、政治的な要素に言及することは、これまであまりなかったが、今回のCOVID-19に関しては、さまざまな意味で我々のあらゆる生活様式に影響を与えており、言及せざるを得ない状況というのが正直なところだ。通常、①経済政策か、②感染抑制かの択一かと思われているが、これに③プライバシーの問題が関わり、トリレンマと称されており(橘玲公式ブログ：[https://www.tachibana-](https://www.tachibana-akira.com/2020/08/12705)

[akira.com/2020/08/12705](https://www.tachibana-akira.com/2020/08/12705))、三つの条件を同時に満たすことができないと言われている。津田大介によれば(朝日新聞8月27日付け朝刊)、米国やスウェーデンは①③を取った結果、②が犠牲になり、欧州諸国が②③を優先して①が犠牲に、そして中国、韓国、台湾やニュージーランドなどは①②をとって③を犠牲にしたと言われている。さて、日本はどうか?どれも満たせない中途半端な政策に見えるし、社会の反応もその方向性を明確にできていない。浅田としては、このトリレンマの課題の解決にロボット技術を始めとする様々な技術や関連研究が少しでも貢献できないかと考えてしまう。喫緊の課題としては、医療現場へのロボット技術の投入による医療従事者の負担軽減や安全性の確保だ。本学会としても、従来から、この分野への貢献が少なかったことから、そのハンディを乗り越えて積極的に活動を開始することの意思表示として、

「新型コロナウイルス感染症に対する医療現場・生活環境の保全を支援するロボット技術の社会実装調査研究委員会」を9月に立ち上げ、東大人工物工学研究センターの本田幸夫先生に委員長に就任頂き、活動をはじめた。まだ、手探り状態だが、学会というよりも、多くのロボット研究者の歯がゆい思いを行動で表すことを狙いとしている。②の課題については、ワクチンが最重要課題だが、政争の具になりかねず、また時間を要するので、それまでの間にでも、導入すべき技術開発は行って行かなければならないし、そのことで他の課題が緩和されないかと期待する。

最先端技術を導入した人工物の導入による解決には、必ず事故の問題が絡む。これは、今回の件に限ったことではないが、最終的には法律の問題として浮かび上がる。そこで、京都大学大学院法学研究科の稲谷龍彦先生に委員長に就任頂いた「ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会」が、4月から活動を開始している。これまで、ユーザーか開発者(企業)のどちらからにしか過失が認められなかったが、ある意味で意思決定を行う自律システムに対して、どのように取り扱うべきかが、さまざまな観点から議論され、具体的な提案も前身のJSTRISTEXの研究プロジェクト成果を通じて発信している。

このような活動がトリレンマの解決に繋がるか定かではないが、我々が出来るところから進めるしかない。これらを含めて昨年より、和文論文のオンライン化、会誌のA4サイズ化、誌面構成の変更、呼称「ロボ學」の導入を含めた学会誌の刷新、従来のホームページの改良に加えて、ニュース主体の新たなWEBページ「ロボ學」の創設などの改革を進めてきた。さらに論文システム改革の議論も進めている。また、学生編集委員会を設置し、これからロボ學の誌面、WEB記事などの拡充を行っていく。既に学生編集委員が手を挙げ始めている。従来の活動と合わせて、よりオープンで社会の様々な困難に立ち向かい、ともに歩いていく学会として改革を進めていく。オープンはまず内からということで、会員の皆様の忌憚のない意見、提案を歓迎する。ご協力をお願いというよりも、より主体的に学会活動に参画頂きたい。

事業別報告（2020年度概要，2021年度計画）

I. シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事／学術講演会理事]

1. 2020年度概要

（1）ロボット教育セミナー「からくり工作教室」

コロナ禍の影響で予定していた夏休みの開催は中止とし、冬休みもしくは次年春休みの開催に向けて企画検討中。

2. 2021年度計画

（1）ロボット教育セミナーを開催予定。

（2）第39回学術講演会（信州大学，2021年9月8日(水)～11日(土)）にて，オープンフォーラム（無料・一般公開）を企画予定。

II. 学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]

1. 2020年度概要

（1）学会誌の編集・発行

2020年の会誌は，従来通り年間10号の発行を予定しており，これまでに第38巻1号～6号を発行している。本年度既発行および今後発行予定の特集は以下の通りである。

第38巻1号 ヒトとロボットの共生社会のための哲学・心理学・法学

第38巻2号 福祉ロボットの社会実装

第38巻3号 実災害現場に求められるロボット技術

第38巻4号 スポーツとロボティクス

第38巻5号 ロボットの国際標準化に立ち向かえ

第38巻6号 AIベースドロボットマニピュレーション最前線

第38巻7号 さがみロボット産業特区が育むロボット

第38巻8号 デザイン思考を取り入れたロボットの社会実装

第38巻9号 教育・技術開発の場としてのロボットコンテスト

第38巻10号 身体と環境の相互作用

なお，2020年1月発行の第38巻第1号から，投稿論文が論文誌から切り離されて，完全オンライン化された。その分，会誌ページ数が減少すると予想されたため，幾つかの企画が立案された。例えば，第38巻1号では，瀬名先生による書き下ろしSF小説「鼓動」が掲載された。この小説のレイアウトについては，巻末側に縦書きレイアウトで掲載することとなり，学会誌としては，新しい試みとなった。また，ロボ學とのコラボレーション企画として，ロボット考学研究専門委員会の研究合宿「ロボット・情報技術とプライバシー」の報告がロボ學に掲載された後，第38巻4号に，学会誌に掲載された。

学術講演会における優秀発表者に対しての論文投稿の呼びかけについても，従来通り，英文誌 Advanced Robotics と共同で実施している。呼びかけに応じて投稿された論文については，査読終了次第，順次，掲載することとしている。また，2020年の学術講演会より，論文投稿規定の見直しを行い，学術講演会への投稿論文と同一内容で，レター投稿を行えるようにした。これにより，現在，レター投稿希望が100名を超えている。一方，学術講演会については，例年同様，学会誌への投稿をエンカレッジするため，学術講演会においてオープンフォーラム「論文投稿の勧め」を企画していた。このフォーラムは，毎年昼食時に開催し，企業の寄付に

より先着 100 名にお弁当を無料で配布することで、これまで、多くの参加者が集まった。しかしながら、2020 年の学術講演会は、オンライン開催となったため、この企画は無くなった。

(2) 投稿論文の投稿・査読状況

表に論文投稿・査読に関する数値を示す。年間投稿論文数および掲載論文数について、2019 年 7 月 1 日～2020 年 6 月 30 日の投稿論文数は 41 件（内、総合論文 0 件、学術・技術論文 39 件、解説論文 2 件、レター 0 件、討論 0 件、前年度 10.8%減）であった。この期間の新規受付論文について、採録率は 50%であった。前期間と比較し、投稿論文数は、減少傾向が続いている。

論文投稿から最終判定までの平均期間は 3.6 ヶ月で前年度の 3.4 ヶ月からほぼ横ばいであり、掲載までの平均期間は 8 ヶ月で前年度の 10 ヶ月から短縮している。

採録された論文の主たる評価項目の内訳は、新規性 36%、有用性 36%、提案性 27%、であった。前年度は順に 46,54,0 %であり、昨年度と比較すると提案性を評価する論文が増えている。

表 学会誌 論文投稿・処理状況

投稿日	受付種類	件数	採録(率) (注 3)	返却	取下げ	査読中
2019.6.30 以前	継続 (注 1)	47	30(71%)	12	1	4
2019.7.1～ 2020.6.30	新規 (注 2)	41	11(50%)	11	0	19
	全合計	88	41(64%)	23	1	23

注 1：2019.6.30 以前に投稿され、2019.7.1～2020.6.30 に判定された／2020.6.30 現在査読中の論文

注 2：2019.7.1～2020.6.30 に新規論文として投稿された論文

注 3：採録率＝採録／（採録＋返却）

(3) 広告受注状況

2019 年度の広告受注に関しては、目標額 400 万円に対して 615 万円の受注と、目標額を達成した。2020 年度目標額も 400 万円と設定しているが、38 巻 5 号時点で既に受注額が 401 万円となっている。昨年度 37 巻 5 号時点では 417 万円であり、昨年度に近いペースで推移している。引き続き、広告代理店・広告主への働きかけを続け、このペースを維持できるよう努力したい。

2. 2021 年度計画

2021 年度においても年 10 号の学会誌発行を計画している。一方、完全オンライン化に伴い減少した会誌ページ数を埋め合わせるため、様々な会誌企画の検討を進めている。学生編集委員による取材記事の掲載がその一例であるが、新型コロナの影響で、各大学において学生の活動が制限されているため、これらの企画がなかなか進んでいないのが現状である。また、今後もロボット学会として新たな Web ページ「ロボ學」と会誌の連動についても、積極的に進める予定である。

III. 欧文誌（継続事業3）[担当：欧文誌理事]

2017年より Editor in Chief に就任した細田耕教授（大阪大学）の統率のもと、Advanced Robotics の安定した発展を維持させつつ、時流に即した新しい取り組みを取り入れようとしているところである。

1. 欧文誌編集・発行

Vol.34 を編集・発行している（全24号）。各号の詳細は以下のとおりである。

Vol./No.	Online Pub date	Theme of Issues	Guest Editors
34/1	2020 Jan	Cyborg and Bionic System II (6 papers)	T. Masuda & Q. Shi
34/2	Jan	Disaster Response Robot - Selected Papers from WRS 2018 (5 papers)	T. Aoki, T. Kamegawa & M. Tanaka
34/3-4	Feb	Service Robots Technology - Selected Papers from WRS 2018 (8 papers)	H. Okada, T. Inamura & K. Wada
34/5	Mar	Regular Issue (5 papers)	
34/6	Mar	Regular Issue (5 papers)	
34/7-8	Apr	Industrial Robot Technology - Selected Papers from WRS 2018 (10 papers)	T. Watanabe, K. Harada & T. Tsuji
34/9	May	Regular Issue (5 papers)	
34/10	May	Regular Issue (5 papers)	
34/11	Jun	Disaster Robotics - ImPACT Tough Robotics Challenge (6 papers)	K. Ohno, T. Kamegawa, K. Yamazaki, S. Suzuki & K. Hashimoto
34/12	Jun	Regular Issue (4 papers)	
34/13	Jul	Robot Learning (7 papers)	W. Takano, M. Howard & E. Demircan
34/14	Jul	Regular Issue (3 papers)	
34/15	Aug	Neuro-Robotics: From Brain Machine Interfaces to Rehabilitation Robotics (5 papers)	Z. Li, H. Liu, W. Wan & C-Y. Su
34/16	Aug	Regular Issue (4 papers)	
34/17	Sep	Adaptive Motion of Animals and Machines (4 papers)	A. Ijspeert, E. Standen, A. Ishiguro, K. Hosoda

2. 2020年度概要

(1) Taylor & Francis との契約内容の更新

昨年度 Taylor & Francis との契約内容を見直した結果、編集作業費による収入が、AR 論文の Online 閲覧費 (RSJ 会員限定) を上回り、RSJ としては€5,000 の収入増に転じている。また、昨年度に引き続き AR の Best Paper Award に対して賞金が支給され、受賞者に賞金を授与することとなる。

	2019～
RSJ online access for member price	€15,000
Editorial expenses	€20,000
Best paper prize	€1,000

(2) 企画・編集・発行作業

2020年度前半の欧文誌企画/編集/発行状況は、前章に記載のとおりである。論文投稿数は6月末現在289件（うち新規投稿論文215件（一般論文145件、特集号論文70件））、であった。（2019年度前半は257件（うち新規投稿論文185件（一般論文126件、特集号論文59件））。論文投稿数が微増している。

2019年度は年間論文投稿総数が539件（新規投稿論文・380件、再投稿論文・159件）で、採択率は、28.76%（Withdrawal含む）であった。2018年度は論文投稿数492件で、採択率は、25.43%（Withdrawal含む）で

あった。昨年度に引き続き本年度においても、Editor リジェクトを積極的に実施することで、質の高い論文のみを査読者に回すような取り組みを行っている。

2019年度の投稿から第一回目のディシジョンまでの期間は平均で62.18日であった(2018年度は76.03日、2017年度は68.56日、2016年度は61.57日)。これまで90日を目標にしてきているが、SchlorOneの導入の効果もあり目標を6年連続で達成しており、安定した推移を示している。また全投稿論文に対してCrossCheck™ softwareが活用され、剽窃の事前チェックを行っている。

(3) シニアエディタおよびアソシエイトエディタ

近年の500件程度の年間投稿論文数に対応するため、現在シニアエディタ8名、アソシエイトエディタ37名で編集作業をおこなっている。これらには、海外の研究機関に在籍するエディタ2名、ならびに国内の研究機関に所属する外国籍のエディタが含まれており、編集活動の国際化を推進している。

(4) WEB 閲覧システム

WEB 閲覧システムにおいては、ダウンロード数の多い論文等を確認でき、代表写真・図の掲載を併記した、“Graphical Abstract”を導入している。Graphical Abstractは学会誌にも掲載している。

(5) 国際化に関して

地域別投稿件数の推移を下表に示す。日本および東アジアを中心とするアジアからの投稿が多く、全体の傾向に大きな変化はない。欧州、アフリカ、北・南米からの投稿率は低い。質の高い論文を掲載するために、特集号を企画するなどにより、特に欧州や北米からの投稿を呼びかける必要がある。

表 2019年および2020年(6月まで)の地域別投稿数

国・地域	2019年		2020年6月末まで	
	投稿数	%	投稿数	%
日本	230	42.7	82	38.1
東アジア*	141	26.2	43	20.0
その他のアジア	76	14.1	51	23.7
欧州	46	8.5	18	8.4
アフリカ	19	3.5	3	1.4
北・南米	25	4.6	18	8.4
オセアニア	2	0.4	0	0
合計	539		215	

* 中国, 韓国, 台湾, 香港, マカオ

3. 2021年度計画

(1) 欧文誌の内容向上に向けた活動

引き続き、インパクトファクタ向上を目標とする。2019年のインパクトファクタは**1.247**である。(ご参考: 2018年・1.104、2017年・0.961、2016年・0.920)であり、年々着実に値が向上している。今後も戦略的にこれを上昇させることを検討する。以前より検討を行っているReview paperの増加や、また引用の多い論文数件のOpen Access化、魅力ある特集号の企画等を実施する。

(2) 国際化に向けた活動

IROSにおける国際委員会との協力の下、外国人会員の獲得、周辺アジア諸国の関係各学会との連携など、Advanced Robotics を活用した日本ロボット学会の国際化に貢献していく。

IV. 調査・研究（継続事業4）[担当：企画・広報理事]

1. 2020年度概要

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発足	種別
ロボットの法及び倫理に関する研究専門委員会	稲谷龍彦	2020年4月	I種
複雑高精度機械の組立技術研究専門委員会	大隅久	2020年4月	I種
遊びとロボット研究専門委員会	橋本秀紀	2017年5月	I種
ロボット考学研究専門委員会	上出寛子	2017年4月	I種
ヒューマノイド・ロボティクス研究専門委員会	杉原知道	2017年4月	I種
ソフトロボティクス研究専門委員会	新山龍馬	2017年4月	II種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	佐野睦夫	2014年8月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	槇田諭	2009年4月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	田原健二	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野敦	2008年4月	I種
空間知能化研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

(2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発足
新型コロナウイルス感染症に対する医療現場・生活環境の保全を支援するロボット技術の社会実装調査研究委員会	本田幸夫	2020年9月
アカデミックロボットベンチャー調査研究委員会	岩田君彦	2020年1月
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	村上弘記	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間一	2013年1月

(3) 技術別・カテゴリー別研究委員会

委員会名	委員長	発足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

2. 2021年度計画

研究専門委員会による研究調査活動を行う。公募による新規研究専門委員会の立ち上げを促進するとともに、HP、学会誌、イベントなどを通して各研究専門委員会の活動内容の積極的な公開を進める。研究協議会により、研究専門委員会間の情報交換を行い、活性化を促すとともに、連携や活動見直しを進める。

V. 表彰（継続事業5）[担当：企画・広報理事]

1. 2020年度概要

- (1) 2020年10月第38回学術講演会において、学会誌論文賞 3件、Advanced Robotics Paper Award 4件、実用化技術賞 2件、研究奨励賞10件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞2件、ロボット活用社会貢献賞2件、功労賞2件の表彰を行う。
- (2) ロボット学の発展、振興のため優秀研究・技術賞、優秀講演賞を2019年9月第37回学術講演会より新設し、2020年10月第38回学術講演会において優秀研究・技術賞7件、優秀講演賞7件の表彰を行う。
- (3) ロボット学の研究を行い、学業成績が優秀な大学学部生、高等専門学校生に対して授与する「優秀学生賞」を新設し、2020年3月末に33人に授与した。
- (4) F A財団論文賞への候補として3件を推薦した。

2. 2021年度計画

第39回学術講演会において、学会誌論文賞、Advanced Robotics Paper Awards、実用化技術賞、研究奨励賞、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞、ロボット活用社会貢献賞、功労賞、優秀研究・技術賞および優秀講演賞の表彰を行う。さらに、ロボット学の研究を行い、学業成績が優秀な大学学部生、高等専門学校生に対して優秀学生賞の授与を行う。また、F A財団論文賞への候補論文の推薦など、学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる、外部団体からの推薦依頼についても積極的に対応していく。

VI. 国際（継続事業6）[担当：国際理事]

1. 2020年度概要

(1) 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にして日本ロボット学会の国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として、

- ・ 国内の外国人研究者向けの発表機会提供のサービス
- ・ 国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み
- ・ Pacific-Asian Robotics Society Union (PARSU)をベースとしたアジアパシフィック圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化

の3つを柱に活動を行っている。

(2) 学術講演会における国際セッションの継続実施

これまでと同様に、日本ロボット学会学術講演会において、国際セッションを実施する。国際セッションでは、セッションの司会、発表、質疑応答の全てが英語で行われる。発表者には、日本に滞在する留学生、研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を海外の研究者、技術者に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、このような場を提供する意義は大きい。今年度の第38回日本ロボット学会学術講演会においては、

- | | | |
|--|-----|-----------|
| ・ IS1: "Robotics x AI" | 6 件 | |
| ・ IS2: Social Robotics and Human-Robot Interaction | 4 件 | |
| ・ IS3: Robotics, Mechatronics and Control | 4 件 | (合計 14 件) |

の3つのトピックでの論文が3つの時間帯（スロット）で発表の予定である。2012年～2019年の論文発表件数はそれぞれ、41件、26件、27件、16件、23件、14件、19件、31件となっている。COVID-19の影響によるオンライン開催となり、例年よりもやや少なめの投稿数となった。国際セッションを盛り上げていくためには、国際担当理事だけでなく、国際委員にセッションを企画していただくなど、一層のテコ入れが必要と考える。また、昨年度に引き続き、優秀国際セッション賞を選出し授与する予定である。

（3）国際交流活動

（3-1）第15回パシフィックアジアロボット学会サミット会議（PARSU サミット会議）参加

- ・ IROS の会期中に韓国ロボット学会(KROS)主催で開催予定（オンライン化の影響により延期の可能性はある）。
- ・ 今後の PARSU の活動方針、PARSU メンバーに向けた RSJ の貢献の仕方を引き続き議論する。

（3-2）これまでのサミット会議での合意事項の推進

- ・ PARSU ホームページ (<http://www.asian-robotics.org/>) の更新と研究成果情報の共有
 - HP 更新
 - 名称を ARSU(パシフィックが無い状態)から PARSU に変更
 - 第14回 ARSU サミット会議の開催報告
 - コンテンツの充実化、タイムリーな情報更新をはかる（議事録、各学会の主催する国際学会へのリンクなど）

（4）国際会議関連

（4-1）国際会議の共催、協賛、後援

本会に関連する国際行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援については、国際担当理事が検討・承認をしている。

日本ロボット学会が共催している主な国際会議は以下の2件である。

- ・ The 29th IEEE International Conference on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2020)
日程：2020年8月31日～9月4日 オンライン開催
- ・ 2020 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS2020)
日程：2020年10月25日～10月29日 会場：Las Vegas, USA（未確定）

（4-2）共催国際会議の運営への貢献

上記の2つの共催国際会議を毎年開催する際に、それぞれ実行委員会と連絡を取り、RSJ が積極的に協力している。2つの国際会議とも IEEE と RSJ との共催であり、MOU (Memorandum of Understanding) を締結している。両国際会議の Steering Committee との円滑な情報交換と MOU の順守にあたり、以下によって、RSJ の姿勢を意思表示しつつ、国際会議運営への貢献をしている。

- ・ RO-MAN 2020 (スタンディングステアリングコミッティ, Awards Committee meeting, Awards Ceremony)への出席 (副会長, 国際担当理事, 事務局)
- ・ IROS2020 の Steering Committee への出席 (会長, 副会長, 国際担当理事, 事務局)

また RSJ は、IROS のサープラスを開催地に還元することで、ロボティクスに関わる活動を国際的にサポートしている。

IROS2020 において RSJ 主催による下記の二つのイベントを計画している。ただし、今年は COVID-19 の影響から、本会議の開催形態も現在議論中であり、下記の RSJ 主催イベントも変更・中止の可能性がある。

- ・ RSJ Tutorial
- ・ RSJ Collaboration Lunch for Industry and Academia

2. 2021年度計画

(1) 学術講演会における国際セッション

第39回日本ロボット学会学術講演会において、OS国際セッションを組織する。発表者には、参加登録費を課すが、登壇資格は問わない。

(2) 国際交流活動

(2-1) 国際会議関連

本会に係る下記国際会議の共催、運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

- ・RO-MAN2021 日程：2021年8月8日～8月12日，会場：バンクーバー，カナダ
- ・IROS2021 日程：2021年9月26日～10月3日，会場：プラハ，チェコ

RO-MAN2021では、理事会メンバーが Standing Steering Committee に参加する。また、韓国ロボット学会(KROS)と共同で学際的研究を対象とした RSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Award のスポンサーとなる。

IROS2021では、理事会メンバー（会長、国際担当理事、事務局長ら）が、IROS Steering Committee に参加する。また、Best Conference Paper Award のスポンサーとなる。さらに、若手研究者向けの RSJ Tutorial を企画・実施する。企業（主に機器展示企業）と参加者のコラボレーションを提供する機会として RSJ Lunch for Industry and Academia Collaboration (RSJ-IAC Lunch)を企画・実施する。

(2-2) その他

日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施

- ・対アジア外交における戦略の立案（協調と競争のバランス付け）
- ・IROS, RO-MAN 等の国際会議での日本ロボット学会の広報
- ・英語による広報活動の展開（Web およびパンフレット）

VII. 学術講演会（その他事業1）[担当：学術講演会理事]

1. 2020年度概要

(1) 第38回学術講演会

期日：2020年10月9日（金）～11日（日）

会場：オンライン開催

実行委員長：浅田 稔（大阪大学）

プログラム委員長：鈴木 智（千葉大学）

2. 2021年度計画

(1) 第39回学術講演会

期日：2021年9月8日（水）～11日（土）

会場：信州大学 上田キャンパス

実行委員長：山崎 公俊（信州大学）

プログラム委員長：未定

VIII. 講習会（その他事業2）[担当：事業理事]

1. 2020年度概要

（1）ロボット工学セミナー

下記のセミナーを企画し、第127回まで開催済み、第128、129、130、131、132回は今後開催予定である。

- 1) 第125回セミナー「物流ロボットにおける物体認識技術とハンドリング技術の最前線」
期日：2020年4月24日（金） 遠隔配信のみ
講師：小野塚 征志（ローランド・ベルガー）、徐 剛（Kyoto Robotics 株式会社）、橋本 学（中京大学）、平井 慎一（立命館大学）
オーガナイザー：栗原 申明（アイシン精機株式会社）
参加者：86組（会員・協賛：個人45名／10人以内10組，会員外：個人17名／10人以内3組／11人以上2組）
- 2) 第126回セミナー「ロボットのための画像処理技術」
期日：2020年5月22日（金） 遠隔配信のみ
講師：内田 祐介（Mobility Technologies）、内山 英昭（九州大学）、櫻田 健（産業技術総合研究所）、千葉 直也（早稲田大学 / オムロンサイニクエックス）
オーガナイザー：牛久 祥孝（OSX / Ridge-i）
参加者：189名（会員・協賛93名，会員外：89名，賛助招待：7名）
- 3) 第127回セミナー「生物の多脚歩行と多脚歩行ロボットの制御技術」
期日：2020年7月6日（月） 遠隔配信のみ
講師：安部 祐一（東北大学）、石黒 章夫（東北大学）、小林 泰介（奈良先端科学技術大学院大学）、細田 耕（大阪大学）、和田 直己（山口大学）
オーガナイザー：一藁 秀行（日立製作所）
参加者：82名（会員・協賛：31名，会員・協賛(学生)：20名，会員外：13名，会員外(学生)：14名，賛助招待：2名，賛助優待：2名）
- 4) 第128回セミナー「ソフトロボットのこれまでとこれから」
期日：2020年9月10日（木） 遠隔配信のみ
講師：新山 龍馬（東京大学）、望山 洋（筑波大学）、川村 貞夫（立命館大学）、高木 賢太郎（豊橋技術科学大学）、脇元 修一（岡山大学）、鈴木 康一（東京工業大学）
オーガナイザー：舩屋 賢（東京工業大学）
参加者：114名（会員・協賛：60名，会員・協賛(学生)：13名，会員外：20名，会員外(学生)：10名，賛助招待：4名，賛助優待：7名）
- 5) 第129回セミナー「福島復興で活躍するロボット」（予定）
期日：2020年10月21日（水） 遠隔配信のみ
講師：浅間 一（東京大学）、新井 民夫（国際廃炉研究開発機構）、佐藤 優樹（日本原子力研究開発機構）、眞田 幸尚（日本原子力研究開発機構）
見学：楢葉遠隔技術開発センター
オーガナイザー：山田 大地（日本原子力研究開発機構）
- 6) 第130回セミナー「宇宙開発を支えるロボット技術の最前線」（予定）
期日：2020年11月27日（金） 遠隔配信のみ
講師：小野 雅裕（NASA/JPL）、田中 克明（ispace）、加藤 祐基（JAXA）、伊藤 美樹（アストロスケール）
オーガナイザー：永岡 健司（九州工業大学）

7) 第 131 回セミナー「視覚と言葉を通じたロボットとの共同作業を目指して」(予定)

期日: 2020 年 12 月以降 遠隔配信での実施を予定

オーガナイザー: 牛久 祥孝 (OSX / Ridge-i)

8) 第 132 回セミナー「ロボットの作り方～移動ロボットの基本と ROS によるナビゲーション実習～」(予定)

期日: 2020 年 12 月 (年度内での実施を検討中) 中央大学後楽園キャンパスまたは遠隔配信

オーガナイザー: ラミレス イクシエル (産業技術総合研究所)

池 勇勳 (北陸先端科学技術大学大学院)

(2) 共催・協賛等

本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った.

共催 0 件, 協賛 19 件, 後援・その他 10 件 (2020 年 3 月～7 月)

○ 主な国内共催事業:

1) 第 25 回ロボティクスシンポジウム

期日: 2020 年 3 月 15 日 (日) ～16 日 (月)

2) ロボカップジャパンオープン 2020

期日: 2020 年 10 月 30 日 (金) ～11 月 1 日 (日)

3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2020

期日: 2020 年 10 月予定

4) 第 20 回レスキューロボットコンテスト

期日: 2021 年に延期

2. 2021 年度計画

(1) ロボット工学セミナー

2021 年度は, 事業計画委員会において下記のセミナーの検討を進めている.

・「ロボットビジョン」2021 年 5 月

・「ロボットの作り方」2021 年 12 月 など

(2) 共催・協賛等

本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う.

○ 主な国内共催事業 (予定):

1) 第 26 回ロボティクスシンポジウム

期日: 2021 年 3 月 16 日 (火) ～17 日 (水)

2) ロボカップジャパンオープン 2021

期日: 未定

3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル 2021

期日: 未定

4) 第 20 回レスキューロボットコンテスト

期日: 未定

IX. 法人処理 [担当：庶務理事]

1. 2020年度概要

(1) 会員数の動向

	2018年 12月31日	2019年 12月31日	2020年 7月15日現在	増減 2020/1/1～7/15
名誉会員	11	12	11	1名減
正会員	2,982	2,969	2,922	47名減
学生会員 A (旧学生会員)	535	354	273	81名減
学生会員 B	422	469	474	5名増
終身会員	122	140	142	2名増
賛助会員 (団体数 (口数))	87 (110)	96 (118)	102 (124)	6団体増 (6口増)

2020年1月～7月の間の移動

		人数/ 口数	正会 員	学生 A	学生 B	終身	名誉	賛助 会員	(口数)
入会/ 復会	正会員	46	46						
	学生 A	21		21					
	学生 B	81			81				
	賛助(社数)	8						8	
	賛助(口数)	8							8
退会/ 喪失	正会員	111	-111						
	学生 A	84		-84					
	学生 B	74			-74				
	名誉	1					-1		
	賛助(社数)	2						-2	
	賛助(口数)	2							-2
変更	学 A→正	18	18	-18					
	学 B→正	4	4		-4				
	正→学 B	2	-2		2				
	学 A→学 B	1		-1	1				
	学 B→学 A	1		1	-1				
	正→終身	2	-2			2			
合計			-47	-81	5	2	-1	6	6

- (2) 第10回定時総会を、令和2年3月19日(木) 日本ロボット学会会議室およびオンラインにて開催。
出席代議員：58名（内委任状提出：35名）（代議員総数：59名，総会成立の定数(過半数)30名以上）
- ・令和元年度の事業・決算報告，および令和2年度の事業・予算の提案がなされ，承認された。
 - ・令和2，3年度を任期とする新役員9名の選任の提案がなされ，承認された。

(3) 各種委員会活動による学会運営活性化の状況：

- ・学会価値委員会：理事が中心メンバーとなり、日本ロボット学会の知名度向上、会員数拡大、学会員に対する就活支援事業やコンサルタント事業、財務体質改善、広報活動の企画等の具体的アクションを引き続き推進中。
- ・今年度は、特に、コロナ禍におけるサービスとして、オンラインロボット工学セミナーのアーカイブ有料配信、有料オンラインシンポジウムの新規事業開拓につき検討を進めている。

2. 2021年度計画

- (1) 年度中に10回(予定含む)の理事会を開催し、会務の審議と処理を行う。
- (2) 会員数の増強を図るため、入会勧誘を引き続き推進する。
- (3) 理事会、各専門委員会での学会価値・サービスの質向上に向けた活動を継続する。

X. 財務報告 [担当：財務理事]

1. 2020年度概要

- (1) 2019年度に2011年3月からの一般社団法人への移行に伴う公益目的支出計画の実施が完了したため、2020年度からは公益事業に分類していた事業(シンポジウム、講演会、講習会など)に収益性を持たせることができる。
- (2) 2020年度は、予算における収入・支出の規模は例年同様であるが、会員数は横ばいであり、学会誌論文掲載数の減少など学会を取り巻く環境を考えると今後も財務状況は安泰であるとは言えない。そのため、学会価値委員会内で新事業・財務改革検討WGを立ち上げ、会員の利便性向上や新事業を創出する方策を議論しており、これにより財務体質の強化を計る。
- (3) 予算執行は、現在までのところ順調である。収入面では、会費、学術講演会、会誌、欧文誌の余剰金分配金を含む雑収入の比率が大きい。しかし、コロナ禍の影響で国際学会分配金収入や講習会事業の収入減が見込まれる。

2. 2021年度計画

- (1) 2021年度は、コロナ禍の影響による生活様式の変化と2020年度の収支予想を精査しながら予算編成を進めていく。会員数の増加を目指し、会員それぞれにメリットのある事業運営を推進することで収入の増加を図ると共に、学会運営の効率化・合理化を進めることで、支出の削減を図り、財務体質の強化につながる予算編成を立案する。また、講習会などでニーズをとらえたセミナー企画を継続するだけでなく、新事業として議論されている有料配信事業の立ち上げやシンポジウム・教育事業の拡大により、財務基盤の安定化をすすめていく。
- (2) 本年12月開催の理事会で2021年度の予算を決定する予定である。

2020年度予算及び1月からの累計実績（単位：千円）				
		* 予算は第10回定時総会報告時の記載		
	収入	2020年度 予算	進捗率 6月末	6月 累計
	継1 公開シンポジウム	0	-	0
	継2 会誌	14,028	35%	4,850
	継3 欧文誌	2,400	99%	2,374
	継4 調査・研究	0	-	0
事業	継5 表彰	0	-	0
	継6 国際	0	-	0
	学術講演会	23,582	1%	280
	講習会	8,760	13%	1,151
	小計	48,770	18%	8,655
	基本財産利息等	14	0%	0
	入会金収入	100	43%	43
本部	会費収入	42,542	82%	34,766
	事業収入	0	-	0
	雑収入	11,660	9%	1,105
	小計	54,316	66%	35,914
収入合計		103,086	43%	44,569

	支出	2020年度 予算	進捗率 6月末	6月 累計
	継1 公開シンポジウム	1,069	3%	34
	継2 会誌	27,303	41%	11,186
	継3 欧文誌	5,294	32%	1,679
	継4 調査・研究	1,493	11%	164
事業	継5 表彰	8,057	32%	2,617
	継6 国際	5,355	2%	107
	学術講演会	19,280	6%	1,164
	講習会	5,356	29%	1,552
	小計	73,208	25%	18,503
	事業費	0	-	0
本部	管理費	28,831	50%	14,508
	小計	28,831	50%	14,508
支出合計		102,039	32%	33,011